

アメリカ農業の将来展望は決して順風満帆とはいえない。アメリカの農業者が直面する農産物価格の低迷は当面続くことが見込まれているためだ。2月21日から2日間にわたり開催されたアメリカ農務省主催のアウトルック・フォーラムで、農務省の首席エコノミストは「国際的な農産物の生産拡大が農産物の国際競争を激化させる」と指摘している。

世界中の農業関係者が参加

農務省は毎年2月、アウトルック・フォーラムを開催し、アメリカ農業全般にかかる展望を報告している。この会議では、農畜産物の需給動向・価格見通しをはじめ、貿易情勢や農業政策、先進事例の紹介に至るまで多様なセミナーが開催される。世界第1位の農産物輸出国の動向を知る貴重な機会とあって、アメリカ各地のみならず世界中から農業関係者が集まる。

厳しい情勢が予想される

アメリカ農業

世界中の関心を集めるアメリカ農業の展望だが、その見通しは明るいものではない。農業経済の指標となる農業所得（Net Farm Income）は、2018年は660億ドルになると見られているが、直

近でのピークである2013年の1,340億ドルの半分以下の水準である。農業所得低迷に伴い、農家負債総額も増加している。農業危機と呼ばれ農家の破産が頻発した1980年代とほぼ同水準までその負債総額は上昇している。

それらの主要因は農産物価格の低迷であるが、今後10年間も大豆、トウモロコシ、小麦、牛肉、豚肉などアメリカの輸出品目のほぼ全てで、国際価格の緩やかな低下が見込まれている。需要の増加を上回る国際的な生産拡

バイオテクノロジーと 新たな貿易協定の締結

厳しい展望を打破するため、農務省が繰り返し主張するのは今回の会議のテーマでもある「地元で成長を、世界に販売を」だ。世界の食料需要の拡大を背景にアメリカの得意分野である科学そしてバイオテクノロジーを駆使し生産性を高める重要性を強調している。加えて、報復関税の撤廃や新たな貿易協定の締結により、他の競合国より有利に輸出拡大を進めようというのである。

日本農業への示唆

アメリカを含め農産物輸出国は、国際競争を避けて通れない。アメリカの戦略は、激化する国際競争という課題に対し、

アメリカ農業の将来展望

——第95回農務省アウトルック・フォーラム——

吉澤龍一郎

(JA全中 国際企画部 国際企画課 (在ワシントン))

大がその要因だ。トランプ政権の強硬な保護政策に対する各国のアメリカ農産物への関税措置もそれに追い打ちをかける。特に中国への輸出減少は顕著で、2017年にアメリカの全輸出額の約16%を占めていた中国への輸出は、2019年には6%にまで減少する見込みとなっている。

農務省は、今後10年で輸出額は緩やかに増加し続けるとしているものの、各国の報復措置が農産物輸出の妨げになっていることは間違いない。

真っ向から立ち向かっていく姿勢といえる。翻って、この課題にわが国農業はどのように向き合うべきか。規模拡大、先進技術を活用した生産性向上というのも重要なポイントであろう。一方で、高品質な農産物の開発・生産による海外産農産物との差別化など、わが国農業の特徴・得意分野を生かした農業をどのように発展させていくかという視点も重要ではないだろうか。将来を展望し、国際競争に真っ向からぶつからない戦略も模索すべきである。